

## 保健師を派遣し 心のケアや健康相談活動

保健師として4月3日(日)から岩手県大槌町の住民の方の個別健康相談(血圧測定、薬の相談など)活動を実施しました。

被災地で健康相談をやっている中で感じたことは、「いつもの薬」は何かを知っておくことです。現地では「いつもの薬」や「いつもの病院」が流され、その人が飲んでいた薬を特定できず、避難所に巡回に来た医師が処方しに困るケースがありました。日ごろから病院任せにせず、なぜその薬を飲んでいいのか、薬の名前、用法用量(どう飲む、どう使う)などの情報を把握しておくことが大切です。お薬手



▲被災者の健康相談を行う保健師

帳などを日常的に持ち歩くなどの工夫がいざというときに身を守ると思っています。

また、被災地では継続的な体調の観察から異常を察知できる保健師のニーズは高いと思います。復旧や復興が進むにつれ、被災者の心のケア充実の必要性が高まってくると思います。

(スポーツ健康課 市野)

## 事務職員を派遣し

### 避難所の支援活動

宮城県石巻市へ4月17日(日)から避難所における支援活動(物資の仕分け・整理・配給等)を行いました。

現地の状況は、水道水は使えず、トイレは仮設のみ。電気は最小限の使用、暖房は救護室のみストーブが使用できるという状況でした。また、現地では、自衛隊と日本財団による炊き出しが行われていました。

現地の大街道小学校では、ボランティアの受け入れが行えていないため、神奈川県と市町村、鳥取県米子市の応援職員の6人ですべてを対応する状態でした。

気温は低く、3日目の夜は雪が降り積もるほどでした。災害の発生から1か月が過ぎ、避難者はストレスからささいなことで口論が起きる状態でした。



▲避難所で物資の仕分け・配給を行う様子

物資を支給するにあたり、避難所のすべての人数分の銘柄等を同一にしなければ不公平の原因となるために、配給が難しい状態でした。被災地へ救援物資を送っていただくことはとても大事なことです。数がまともっていないと配給が難しく、余剰に届く物資の仕分けは人手や場所の問題で思うような作業ができず苦労しました。

活動中は、被災者の温かい言葉が活動の糧になり、人が助け合う意味を改めてかみしめました。

(危機管理対策室 竹内)

# 津波避難訓練を実施します

自分を守るために必要なことは・・・  
自分を守るための訓練にご参加ください

▼とき

6月18日(土) 午前9時

▼ところ

北浜海岸他

▼訓練内容

地震による津波が10〜15分以内に到着することを想定します。午前9時に警報サイレンを放送します。海岸利用者や住民の方は、高台に避難を行います。

▼対象地区

台町、南本町、南下町、北本町、茶屋町、裡道、神明町、山王町、長者町、東町。

※高麗、北下町、西部地区は別日程で実施予定。



津波から命を守るには正しい知識から  
東日本大震災で津波被害を受けた地域では、想定を大幅に越えるもので、恐ろしさは想像を絶するものです。  
何時来るのかわからない大地震に備え、正しい知識を備えることが必要です。  
ぜひ、訓練に参加し、自分や家族の命を守るために何が必要かを一緒に考えましょう。



▲津波訓練の様子(昨年実施)

◎問い合わせ

危機管理対策室

☎内線244